

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日常生活活動学		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
関根 聡美 他	D313	s.arakawa	火曜日 10:40~12:10		
授業の目的・概要	基本動作、日常生活活動 (ADL) 能力は、人間が自立して生活するための重要な能力である。そこで日常生活活動学では、基本動作、ADL 能力を維持・改善するために、基本動作、ADL 能力に関連した理学療法評価、治療の実施方法を習得し、基本動作や ADL 能力の問題点を抽出かつ改善できることを目的とする。まず基本動作 (起居・移乗等) や ADL (食事・トイレ等) の評価、問題点の抽出、治療方法を講義で解説する。その後 ADL を支援する機器、生活環境の改善、法的諸制度の利用方法について説明する。				
学習上の助言	授業内容の質問は、授業中及びオフィスアワーの時間に設ける。積極的に質問し理解を深めて欲しい。				
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第5版/著:奈良勲/編:鶴見隆正、隆島研吾/医学書院/2017				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	基本動作、ADL 動作に関連した理学療法評価を説明できる。		PT (2)、(3)、(5)、(6)		
②	基本動作、ADL 動作の問題点を抽出し、治療計画を立案することができる。		PT (2)、(3)、(5)、(6)		
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	日常生活活動の概要を学習する。	講義	ADL の概要を教科書、配布資料で確認する。	4	
2	日常生活活動の定義と分類を学習する。	講義	ADL の定義・分類を教科書、配布資料で確認する。	4	
3	日常生活活動と生活の質 (QOL) の定義・分類を学習する。	講義	ADL や QOL の定義・分類を教科書、配布資料で確認する。	4	
4	「ADL 能力に対する評価①」 国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF) の概要・詳細を学習する。	講義	ICIDH と ICF について教科書、配布資料で確認する。	4	
5	「ADL 能力に対する評価②」 国際生活機能分類 (ICF) の概要・詳細を学習する。	講義	ICF について教科書、配布資料で確認する。	4	
6	「ADL 能力に対する評価③」 基本動作、ADL 動作の概要を学習する。	講義	基本動作、ADL 動作を教科書、配布資料で確認する。	4	
7	「ADL 能力に対する評価④」 Barthel Index (BI) の概要を学習する。	講義	BI の概要・詳細を教科書、配布資料で確認する。	4	
8	「ADL 能力に対する評価⑤」 Function Independence Measure (FIM) の概要を学習する。	講義	FIM の概要を教科書、配布資料で確認する。	4	
9	「ADL 能力に対する評価⑥」 BI と FIM の詳細を学習する	講義	BI・FIM の詳細を教科書、配布資料で確認する。	4	
10	「ADL 能力に対するアプローチ①」 自立支援機器の適応方法を学習する。	講義	自立支援機器について教科書、配布資料で確認する。	4	
11	「ADL 能力に対するアプローチ②」 ADL を支援する歩行補助具・車椅子の適応方法を学習する。	講義	歩行補助具・車椅子について教科書、配布資料で確認する。	4	
12	「ADL 能力に対するアプローチ③」 生活環境の評価・改善計画について学習する。	講義	生活環境を教科書、配布資料で確認する。	4	
13	法的諸制度の適応方法を学習する。	講義	法的諸制度の適応方法を教科書、配布資料で確認する。	4	
14	在宅復帰位に向けた ADL 指導方法を学習する。	講義	症例の一連の評価、治療の選定ができるように復習する。	4	
15	ADL の概念と評価及び介入の方向性などについて理解を深める。	講義	症例の一連の評価、治療の選定ができるように復習する。	4	
試	定期試験 (達成度評価、評価ポイントを参照)				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		80	0	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	10	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価をする。教科書ならびに配布資料などから出題し、理解度を問う（筆記試験、80%）。出題形式などは授業時に提示する。				必要に応じて試験の解答を提示し、解説をする。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業中に出される課題で授業の理解度を問う。(20%)				
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎関根 聡美、三科 貴博</p> <p><b>教員の実務経験：</b>医療機関にて実務経験あり</p> <p><b>実践的授業の内容：</b>理学療法業務を行う問題点を臨床経験に基づく視点から解説し、具体的な対応策を考察し検討する。学生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p><b>*全て対面授業で実施する予定である。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。</b></p> <p><b>問題がある場合は面接授業の参加は認めない。</b></p> <p>今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。</p>							